YAMAHA

USB AUDIO INTERFACE

AUDIOGRAM6

Owner's Manual
Bedienungsanleitung
Mode d'emploi
Manual de instrucciones
Руководство пользователя
取扱説明書

English
Deutsch
Français
Español
Русский
日本語

EN
DE
FR
ES
RU
JA

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

⚠	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
🚫	～しないでくださいという「禁止」を示します。
❗	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

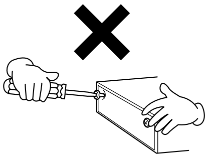
⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

分解禁止

禁止

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



水に注意

禁止

この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに USB ケーブルをこの機器から抜き、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

禁止

濡れた手で USB ケーブルを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

⚠ 注意

設置

必ず実行

この機器を移動するときは、必ず USB ケーブルなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

禁止

ボリュームコントロールをすべて最大には設定しない。
接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。

禁止

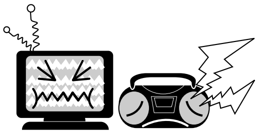
直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

禁止

不安定な場所に置かない。
この機器が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



接続

必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量（ボリューム）を最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

使用時の注意

必ず実行

スピーカーの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にモニタースピーカーの電源を入れる。また、電源を切るときは、最初にモニタースピーカーの電源を切る。

禁止

この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。

禁止

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに USB ケーブルをこの機器から抜き、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

禁止

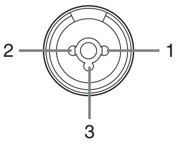
大きな音量で長時間ヘッドフォン / スピーカーを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

禁止

この機器の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

(5)-10 2/3

MIC/INST 端子 (XLR タイプ) のピン配列は、以下のとおりです。（IEC60268 規格に基づいています）
1: グラウンド（GND)、2: ホット（+）、3: コールド（−）



● **データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので､ご了承ください。**
● **不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。**

使用後は、コンピューターの電源を切る、または USB ケーブルをコンピューターから抜き、必ず電源を切りましょう。

スイッチ、ボリュームコントロール、接続端子などの消耗部品は、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談ください。

* この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては､大変気になるものです｡隣近所への配慮を充分にいたしましょう｡静かな夜間には小さな音でもよく通り､特に低音は床や壁などを伝わりやすく､思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります｡夜間の演奏には特に気を配りましょう｡窓を閉めたり､ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です｡お互いに心を配り､快い生活環境を守りましょう。

· ヘッドフォンをご使用になる場合は､耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

· 仕様および外観は､改良のため予告なく変更することがあります。

■ ご注意

· 取扱説明書の著作権はすべてヤマハ(株)が所有します。
· 付属のソフトウェアの著作権は､Steinberg Media Technologies GmbH社が所有します。
· 巻末にこのソフトウェアのご使用条件が記載されています｡このソフトウェアをインストールする前に､必ずこのご使用条件をお読みください｡ディスクの包装を解かれた場合は､このソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。
· このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製､改変することはできません。
· このソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については､一切責任を負いかねますのでご了承ください。
· このソフトウェアが入っているディスクは､オーディオ/映像用ではありません｡コンピューター以外の機器では絶対に使用しないでください。
· アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については､別途ご案内させていただきます。

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は､すべて操作説明のためのものです｡したがって､実際の仕様と異なる場合があります。

この製品は、ヤマハ (株) が著作権を有する著作物やヤマハ (株) が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、音楽データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ (株) の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

ヤマハ (株) および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

· Windowsは､米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
· MacまたはMacintoshは､米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
· その他､本書に記載されている会社名および商品名等は､各社の登録商標または商標です。

はじめに

このたびは、コンピューターレコーディングシステムAUDIOGRAM 6をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。AUDIOGRAM 6は、オーディオデータの転送を可能にしたUSBオーディオインターフェースと音楽制作をサポートするソフトウェアCubase AIが同梱されています。簡単なセットアップや操作でコンピューター録音や本格的な音作りが実現できます。

AUDIOGRAM 6の優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

特長

USBケーブル1本でコンピューターと接続 89ページ

付属のUSBケーブルを使ってコンピューターとAUDIOGRAM本体を簡単に接続できます。オーディオデータ(2チャンネル)をUSB経由でコンピューターからAUDIOGRAM本体、AUDIOGRAM本体からコンピューターの双方向に送れます。(サンプリング周波数44.1/48 kHz)

ドライバーインストール不要 89ページ

コンピューターのOSに標準で付属されているドライバーが使用できるので、ドライバーをインストールする必要はありません。

DAWソフトウェアCubase AI付属 89ページ

付属のソフトウェアCubase AIを使うと、手軽にハードディスクレコーディングを楽しむことができます。

コンプレッサー 97ページ

マイクや生楽器(ギター)などの入力にコンプレッサーをかけると、音声信号のピークを圧縮して音を歪ませずに全体の音量を上げることができます。

ファンタム電源(+48 V) 97ページ

PHANTOM +48Vスイッチをオンにすると、インプットチャンネル1の端子にファンタム電源を供給することができます。外部電源の必要なコンデンサーマイクも手軽に接続できます。

付属品

- Cubase AI 4 DVD-ROM
- USBケーブル
- 取扱説明書(本書)

　*保証書は本書102ページに記載されています。

目次

はじめに 86
特長 86
目次 86
動作環境 87
セットアップ例 88

クイックガイド 89
1. Cubase AIをインストールする 89
2. 接続する 89
3. 電源を入れる 90
4. 音量を調整する 90
5. Cubase AIに録音する 91
6. Cubase AIでミックスダウン 95

各部の名称と機能 96
入力された信号の流れ 97
困ったときは? 98
ユーザーサポートサービスのご案内 100
サービスについて 101
保証書 102
仕様一覧 104
一般仕様 104
寸法図 104
ブロック図 105
同梱ディスクについて 116
ソフトウェアのご使用条件 117

動作環境

NOTE ・最新の動作環境については、下記のURLをご参照ください。
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/smtg/

AUDIOGRAM接続時のコンピューターの動作環境

Windows Vista

パソコン本体	USB端子を標準装備したWindows対応パソコン
対応OS	Windows Vista
CPU	1GHz以上のIntel Core/Pentium/Celeronファミリーのプロセッサー
必要メモリー	1GB以上

Windows XP

パソコン本体	USB端子を標準装備したWindows対応パソコン
対応OS	Windows XP Professional/XP Home Edition
CPU	750MHz以上のIntel Core/Pentium/Celeronファミリーのプロセッサー
必要メモリー	96MB以上(128MB以上推奨)

Macintosh

パソコン本体	USB端子を標準装備したMacintoshコンピューター
対応OS	Mac OS X 10.3.3以上
CPU	G3/300MHz以上のCPU、Intel製のCPUを搭載したMacintoshコンピューター
必要メモリー	128MB以上

Cubase AI 4の動作環境

Windows

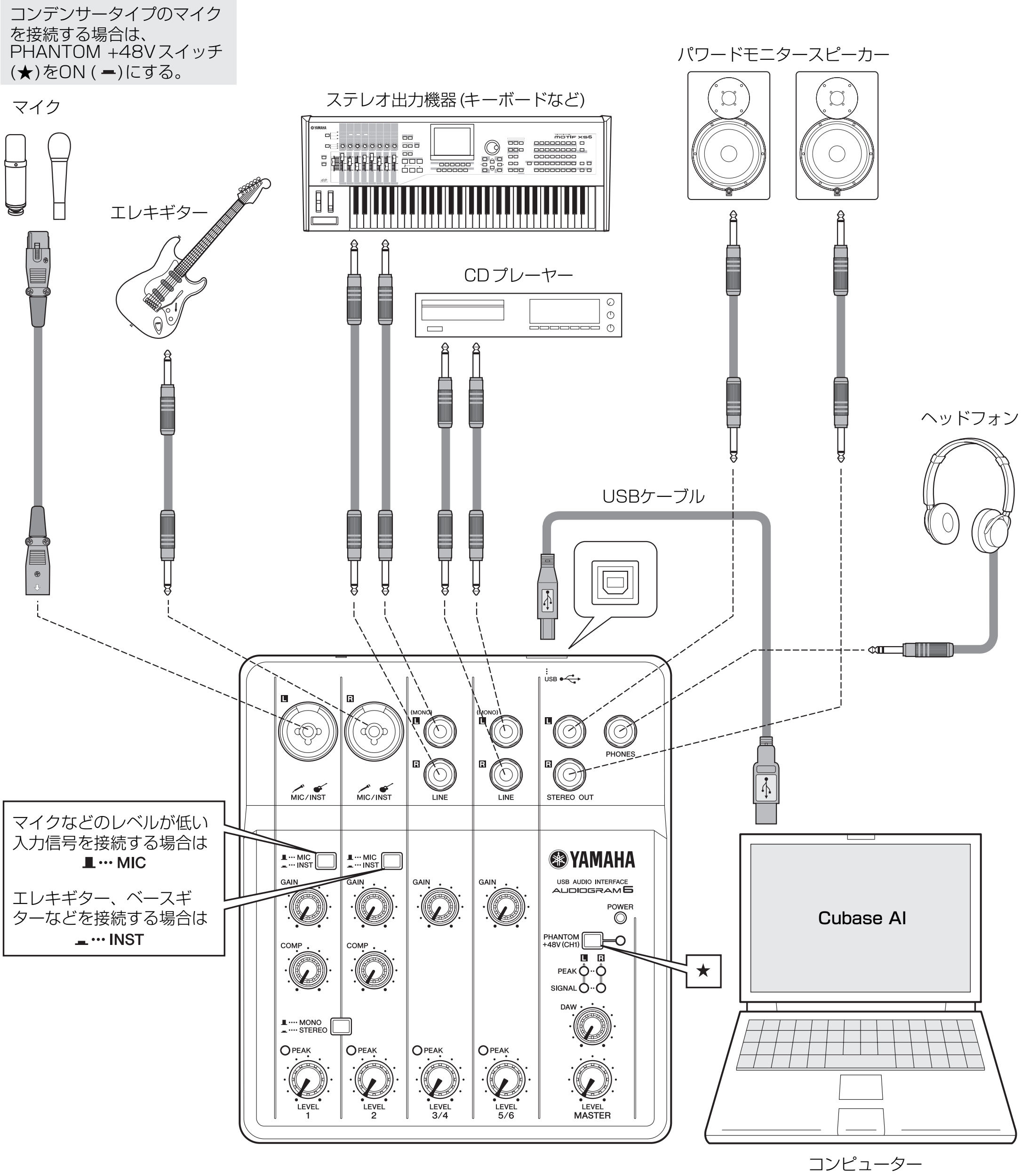
対応OS	Windows XP Professional SP1以上/XP Home Edition SP1以上 Windows Vista (32 bit)
CPU	Intel Pentium 1.4GHz以上を搭載したコンピューター
必要メモリー	512MB以上
オーディオインターフェース	Windows DirectX/ASIO対応
ハードディスク空き容量	1GB以上

Macintosh

対応OS	Mac OS X 10.4以降
CPU	Power Mac G4 1GHz/Core Solo 1.5GHz以上
必要メモリー	512MB以上
ハードディスク空き容量	1GB以上

NOTE
・インストールにはDVDドライブが必要になります。
・ソフトウェアライセンスを有効にするため、インターネットに接続した状態でインストールしてください。

セットアップ例



コンデンサータイプのマイクを接続する場合は、PHANTOM +48Vスイッチ(★)をON (▬)にする。
マイク
エレキギター
ステレオ出力機器 (キーボードなど)
CDプレーヤー
パワードモニタースピーカー
ヘッドフォン
USBケーブル
マイクなどのレベルが低い入力信号を接続する場合は ··· MIC
エレキギター、ベースギターなどを接続する場合は ··· INST
★
Cubase AI
コンピューター
YAMAHA
USB AUDIO INTERFACE
AUDIOGRAM 6
MIC/INST
LINE
STEREO OUT
PHONES
GAIN
COMP
PEAK
LEVEL
MASTER
POWER
PHANTOM +48V (CH1)
SIGNAL
DAW
MONO
STEREO

クイックガイド

このクイックガイドは、Cubase AIのインストールからCubase AIを使っての録音やミックスダウンまでの操作手順を説明しています。この取扱説明書の各部の名称と機能 (96ページ) やCubase AI に付属のマニュアル (PDF形式) とあわせてご活用ください。

Step 1 Cubase AIをインストールする

重要! インストールの過程で「スタインバーグ･エンドユーザー･ライセンス契約書」が表示されますが、その契約書は、巻末のソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。必ず巻末の「ソフトウェアのご使用条件」をお読みいただき、同意される場合のみインストールしてください。

1 コンピューターを起動し、管理者権限のあるアカウントでログオンします。

2 DVD-ROMドライブに付属のDVD-ROMを挿入します。

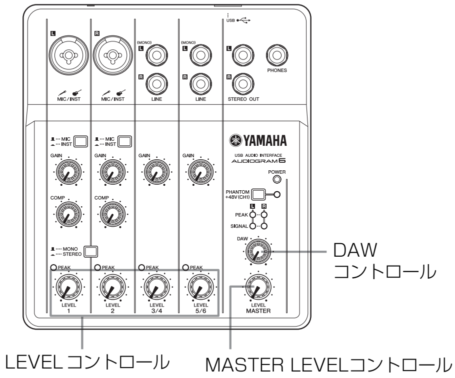
3 Windowsの場合は、「Cubase AI 4 for Windows」フォルダーの「CubaseAI4.msi」を、Macintoshの場合は、「Cubase AI 4 for MacOS X」フォルダーの「CubaseAI4.mpkg」のアイコンをダブルクリックします。

画面の指示にしたがって、Cubase AIをインストールします。

NOTE
・Cubase AIを継続してご使用いただくために、ユーザー登録とソフトウェアライセンス認証が必要です。登録と認証は、インターネットに接続した状態でCubaseを起動したときに行なえます。起動時に表示される「今すぐ登録」ボタンをクリックし、表示されたすべての項目を入力してください。登録と認証をされない場合は、インストール後、一定期間のみご使用いただけます。

Step 2 接続する

1 接続するすべての機器(コンピューターを除く)の電源をオフ(STANDBY)にして、本体のLEVELコントロール、MASTER LEVELコントロールおよびDAWコントロールを最小にします。



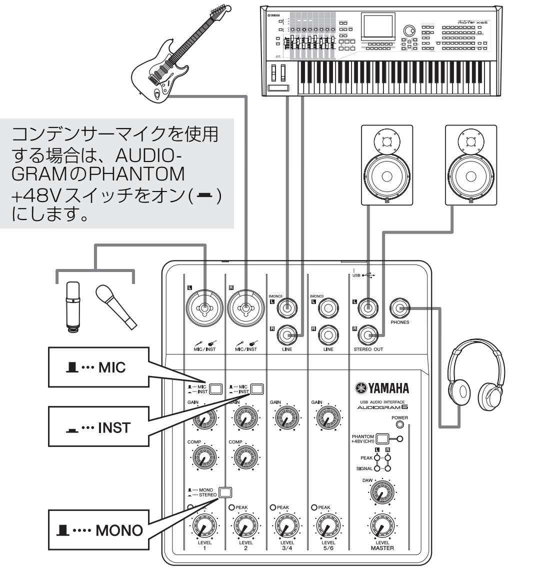
2 楽器やマイクなどを接続します。

接続については、セットアップ例(88ページ)や各部の名称と機能(96ページ)をご覧ください。

3 インプットチャンネル1、2の場合、接続した機器に応じてMIC/INST切り替えスイッチを切り替えます。

マイクを接続した場合はMIC (■)、ギターなどを接続した場合はINST (▂)にします。

4 インプットチャンネル1と2をモノラルチャンネルとして使用する場合はMONO/STEREOスイッチをMONO (■)、ステレオチャンネルとして使用する場合はSTEREO (▂)にします。



Step 3 電源を入れる

スピーカーから大きなノイズが発生しないようにするため、楽器、マイク、CDプレーヤーなどの音源に近い機器から順に電源をオンにします。

1 楽器やマイクの電源を入れます。

2 チャンネル1にコンデンサーマイクを接続した場合は、PHANTOM +48Vスイッチをオン(▂)にしてください。

ファンタム電源を入れる場合は、下記の点に注意してください。

- ファンタム電源が不要なときは、必ずPHANTOM +48Vスイッチをオフ(■)にしておいてください。
- ファンタム電源をオンにする場合は、コンデンサーマイク以外の機器(XLRタイプ)がチャンネル1のMIC/INST端子に接続されていないことを確認してください。外部機器の故障の原因になります。ただし、バランス型ダイナミックマイクや出力端子がフォーンタイプの楽器は接続されていても問題ありません。
- スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源がオフの状態で、ファンタム電源をオン/オフしてください。また、MASTER LEVELコントロールは、最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害または機器の損傷になることがあります。

3 付属のUSBケーブルを使ってコンピューターと本体を接続します。

本体の電源がオンになり、POWERインジケーターが点灯します。

USB端子ご使用時の注意

USB端子とコンピューターを接続するときは、以下のことを行なってください。
以下のことを行なわないと、コンピューターやAUDIOGRAM本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動してください。

- USB端子とコンピューターを接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- USBケーブルの抜き差しをする前に、コンピューターのすべてのアプリケーションを終了させてください。
- USBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行なってください。

USBケーブルをUSB端子から抜き差しする場合は、DAWコントロールとMASTER LEVELコントロールを最小にしてください。

NOTE はじめてコンピューターのUSB端子に接続した場合や、以前接続したUSB端子と違う端子に接続した場合は、ドライバーのインストール画面が表示されることがあります。その場合は、インストールが完了するまでお待ちください。

4 モニタースピーカー(パワードスピーカー)の電源を入れます。

Step 4 音量を調整する

1 GAINコントロールを最小、LEVELコントロールを1時の位置に設定します。

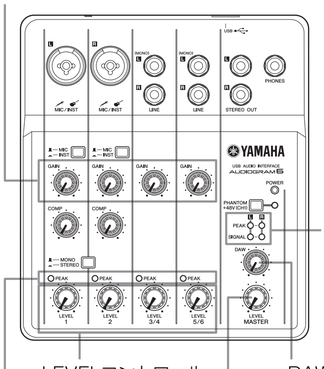
MASTER LEVELコントロールは最小にしてください。大音量が出て、聴覚障害または機器の損傷になることがあります。

2 AUDIOGRAMに接続した機器側の音量レベルを調整します。

3 最大入力時にインプットチャンネルのPEAKインジケーターが一瞬点灯するようにGAINコントロールを調整します。

4 モニタースピーカーやヘッドフォンで音を聞きながら、MASTER LEVELコントロールで全体の音量を調整します。

レベルインジケーターのPEAK LEDが点灯する場合は、LEVELコントロールで音量を下げてください。



Step 5 Cubase AIに録音する

先ほどインストールしたCubase AIとAUDIOGRAMを使って録音してみましょう。

NOTE　Cubase AIの操作についてさらに詳しく知りたい場合は、Cubase AIに付属のマニュアル(PDF形式)をご覧ください。

Cubase AIのセットアップ

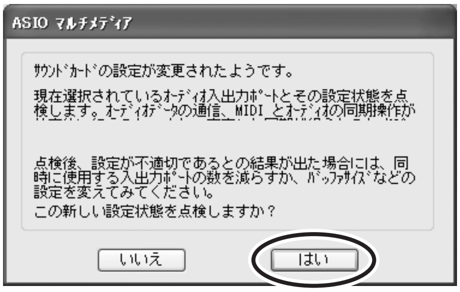
1 コンピューターの音量を最大値に設定します。

設定方法は、98ページ「困ったときは?」の「録音した音量が小さい」の項目をご覧ください。

2 Cubase AIを起動します。

Windowsの場合：

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Steinberg Cubase AI 4]→[Cubase AI 4]をクリックします。ASIOマルチメディアダイアログが表示される場合は、[はい]をクリックします。



Macintoshの場合：

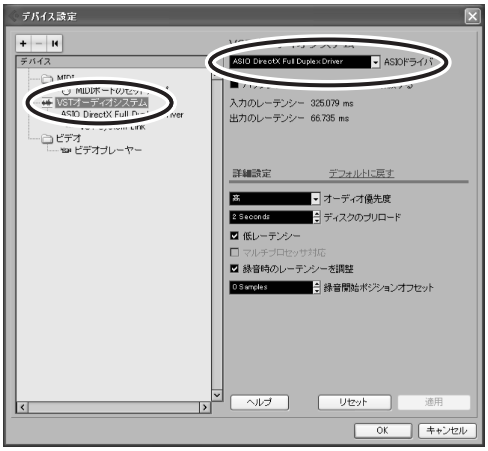
[アプリケーション]→[Cubase AI 4]をダブルクリックします。

NOTE
・Cubase AIをインストールするときにファイルの保存先を指定した場合は、指定した保存先からCubase AIを起動します。
・デスクトップにCubase AIのショートカット、またはエイリアスを作っておくと便利です。

3 [デバイス]メニュー→[デバイスの設定]を選択して、デバイス設定ウィンドウを開きます。

Windowsの場合：

左側の[デバイス]欄で[VSTオーディオシステム]を選択します。右側の[ASIOドライバ]で[ASIO DirectX Full Duplex Driver]を選択します。「ASIOドライバを切り替えますか？」というダイアログが表示されたら、[切り替え]をクリックします。

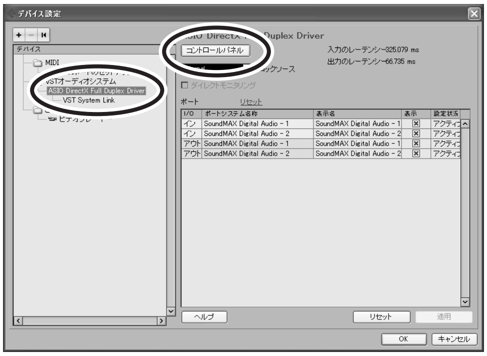


Macintoshの場合：

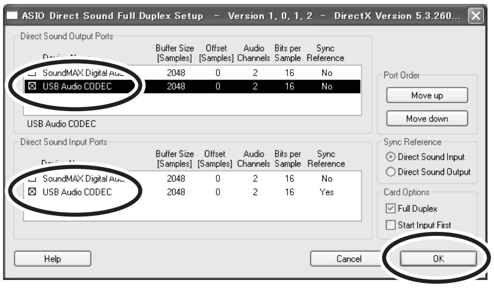
左側の[デバイス]欄で[VSTオーディオシステム]を選択します。右側の[ASIOドライバ]で[USB Audio CODEC (2)]を選択して、[OK]をクリックします。手順7に進みます。

NOTE　Mac OS Xをお使いの場合は、[USB Audio CODEC (1)]と[USB Audio CODEC (2)]が選択できます。通常は[USBAudio CODEC (2)]を選択します。再生(ミックスダウン含む)のみ行なう場合で、CPUの負荷を軽減したいときは、[USB Audio CODEC (1)]も選択できます。

4 **Windowsをお使いの場合は、デバイス設定ウィンドウ左側の[デバイス]欄で[ASIO DirectX Full Duplex Driver]を選択し、右側の[コントロールパネル]ボタンをクリックします。**

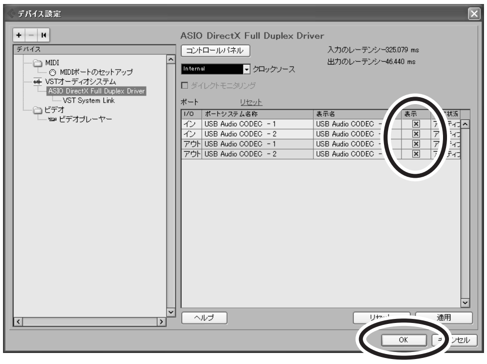


5 **ASIO Direct Sound Full Duplex Setupダイアログが表示されます。出力ポートと入力ポートの設定で[USB Audio CODEC]のみにチェックを入れ、[OK]をクリックしてダイアログを閉じます。**



6 **デバイス設定ウィンドウの[ポート]欄の[ポートシステム名称]が「USB Audio CODEC - 1/2」になっていることを確認し、[表示]欄にチェックを入れます。[OK]をクリックしてデバイス設定ウィンドウを閉じます。**

NOTE
- [ポートシステムの名称]が変更されない場合は、Cubase AIを再起動し、デバイス設定ウィンドウを再度開いてください。
- Windows Vistaをお使いの場合、入力ポートが表示されない場合があります。その場合は、「困ったときは?」の「入力ポートが表示されない」をご参照ください。



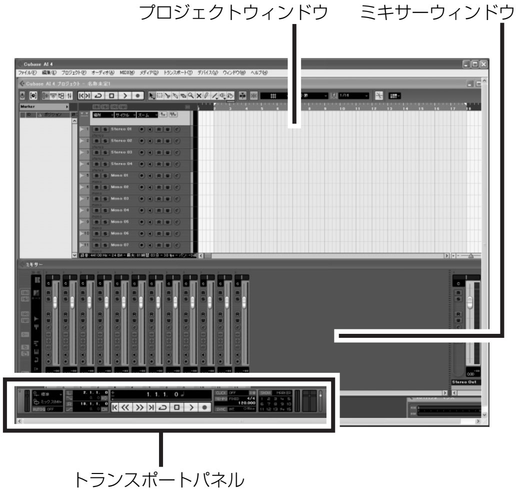
7 **[ファイル]メニュー→[新規プロジェクト]を選択し、新規プロジェクトファイルを作成します。**

新規プロジェクトダイアログが表示されます。ここでは、テンプレートとして[CAI4－4 Stereo 8 Mono Audio Track Recorder]を選択して、[OK]をクリックします。

NOTE Cubase AIでは、録音するデータのファイルをプロジェクトファイルと呼びます。

8 **ディレクトリーの選択ダイアログが表示されたら、作成したプロジェクトファイルやオーディオファイルが保存されるフォルダーを指定して、[OK]をクリックします。**

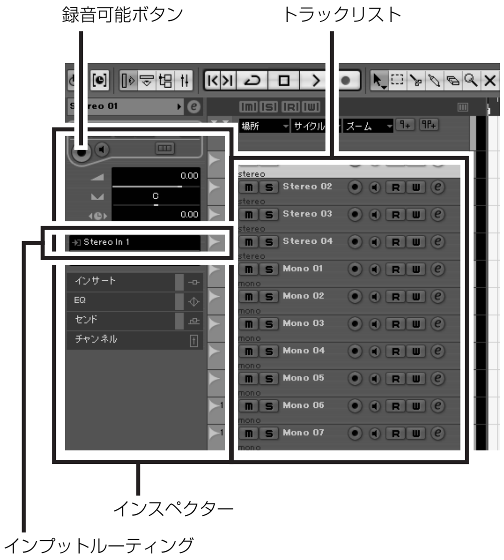
空の4ステレオと8モノラルのオーディオトラックを配置したプロジェクトウィンドウが表示されます。



録音の準備

1 トラックリスト(トラック名が表示されている箇所)をクリックして、録音するトラックを選択します。

選択したトラックの各種設定が、左側のインスペクターに表示されます。



NOTE シンセサイザーなどの楽器を録音する場合はステレオトラック、ボーカルやギターを録音するときはモノラルトラックに録音するのが一般的です。

2 インスペクターにあるインプットルーティングをクリックして、オーディオトラックの入力ソースを選択します。ステレオトラックの場合は「Stereo In 1」、モノラルトラックの場合は「Left (Right)－Stereo In 1」に設定します。

3 録音するトラックの録音可能ボタンがオンになっていることを確認します。

録音可能ボタンがオフになっている場合はクリックしてオンにしてください。

4 録音する楽器を演奏しながら、トランスポートパネルのレベルメーターが振り切れないように(クリッピングインジケーターが赤く点灯しないように)、AUDIOGRAMのインプットチャンネルのGAINコントロールとLEVELコントロールで音量を調整します。

<トランスポートパネル>

5 プロジェクトウィンドウの上部にあるルーラーで、録音を開始する位置を設定します。

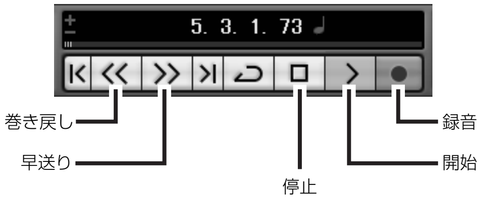
ルーラーが表示されている黒い部分をクリックすると、プロジェクトカーソル(黒い縦のライン)がそのポジションに移動します。

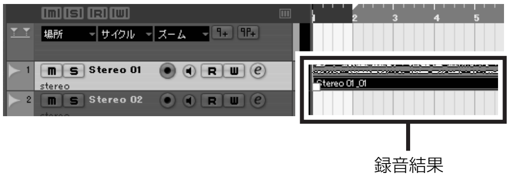
録音/再生

1 トランスポートパネルの録音ボタンをクリックして、録音を開始します。

録音が開始されると、プロジェクトカーソルが右に動き始め、録音結果を示すボックスが作られます。

<トランスポートパネル>





2 楽器を演奏します。

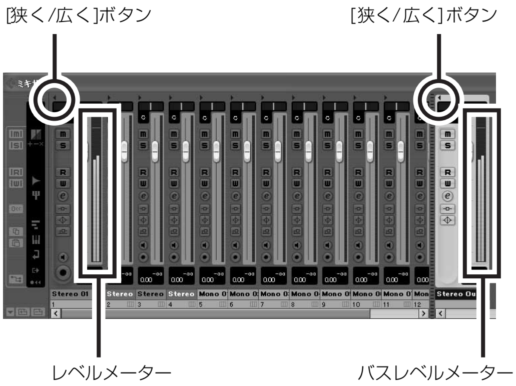
3 演奏が終わったら、トランスポートパネルの停止ボタンをクリックします。

> **ノイズが少ない音を録音するには**
>
> AUDIOGRAMからのオーディオ信号のレベルをできるだけ大きくすることによって、ノイズが少ないバランスのとれた信号を録音できます。録音するオーディオ信号のレベルは、AUDIOGRAMのDAWコントロールを最小にすると、レベルインジケーターで確認できます。レベルインジケーターのPEAK LEDが一瞬点灯するように、各チャンネルのLEVELコントロールで音量を調整してください。

4 録音結果を再生するには、トランスポートパネルの巻き戻しボタンやルーラーを使って巻き戻してから、トランスポートパネルの開始ボタンをクリックします。

全体の音量はミキサーウィンドウ右側のマスターセクションのバスレベルメーターに、各チャンネルのレベルは各チャンネルストリップのレベルメーターに表示されます。

NOTE
- ・ミキサーウィンドウの左上にある[狭く/広く]ボタンをクリックして各チャンネルストリップの表示を広げておくと便利です。
- ・Cubase AIの再生音をAUDIOGRAMで聞く場合は、DAWコントロールとMASTER LEVELコントロールで音量を調整してください。
  コンピューターの音量を最大値のときに、AUDIOGRAMのDAWコントロールを1時の位置に設定すると、再生時の音量が録音時と同じになります。



5 プロジェクトファイルを保存するには、[ファイル]メニュー→[保存]を選択して、ファイル名を指定して保存します。

予期せぬトラブルに備えて、プロジェクトファイルはこまめに保存しましょう。

6 同じトラックに引き続き録音するには、手順1から5を繰り返します。

7 別のトラックに引き続き録音するには、別のトラックを選択して録音手順を繰り返します。

Step 6 Cubase AIでミックスダウン

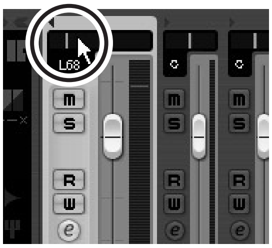
録音した複数のオーディオトラックをステレオにミックスして、ウェーブファイルを作成してみましょう。WAVファイルやAIFFファイルに保存してオーディオCDを作成できます。

1 Cubase AIを起動して、プロジェクトファイルを開きます。

2 トランスポートパネルの開始ボタンをオンにします。

3 再生音を聞きながら、チャンネルストリップのレベルフェーダーを上下にドラッグして、各トラックの音量バランスを調整し、全体の音量を右側のマスターボリュームフェーダーで調整します。

4 チャンネルストリップの上部にあるパンコントロールを左右にドラッグして、各トラックのパン(左右のバランス)を調整します。



5 必要に応じて、EQで音質を調整したり、エフェクトをかけたりします。

ここでは例として、リバーブをかけてみましょう。チャンネルストリップ左側にあるエディットボタン e をクリックして、VSTオーディオチャンネル設定ウィンドウを開きます。インサート1をクリックしてReverb - RoomWorks SEを選びます。

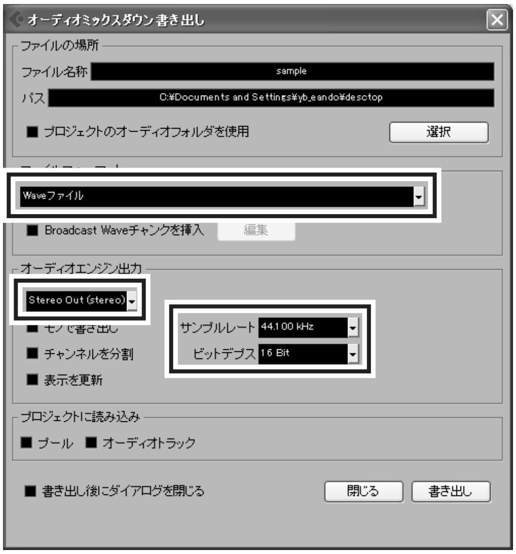
NOTE さらに詳しく知りたい場合は、Cubase AIに付属のマニュアル(PDF形式)をご覧ください。

チャンネルストリップのレベルフェーダーを少し下げてからエフェクトを設定してください。エフェクトをかけると出力レベルが上がる場合があります。

6 ミックスの最終調整が終わったら、[ファイル]メニュー→[書き出し]→[オーディオミックスダウン]を選択します。

7 ファイル名を入力して、保存先とファイルの種類を選択します。

オーディオCDを作成する場合は、ファイルの種類としてWAVファイル(Mac OS Xの場合はAIFFファイル)、「Stereo Out (stereo)」「44.1kHz」「16 Bit」を選択します。

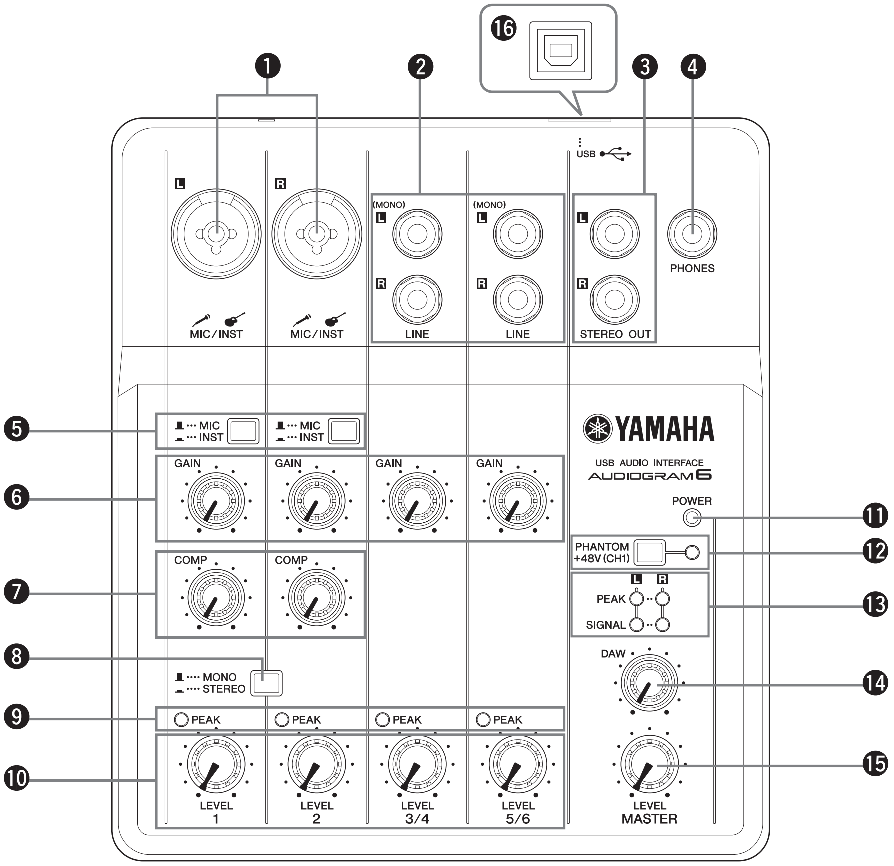


8 [書き出し]をクリックします。

ミックスダウンの進行状況を示すダイアログが表示されます。ダイアログが閉じたらミックスダウンが完了です。

NOTE ミックスダウンしたファイルは、Windows Media PlayerやiTunesなどで再生できます。

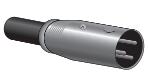
各部の名称と機能



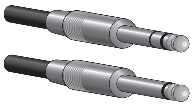
❶ MIC/INST入力端子

ギターやマイクなどを接続します。この端子には出力端子がXLRタイプまたはフォーンタイプの機器を接続できます。接続した機器の信号レベルに合わせてMIC/INST切り替えスイッチ❺を切り替えてください。

XLRタイプ



フォーンタイプ

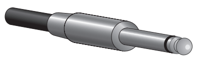


NOTE　エレキギターやエレキベースを直接接続することもできます。

❷ LINE入力端子(L(MONO)/R)

シンセサイザーやCDプレーヤーなどステレオ信号で出力される機器を接続します。
L (MONO)端子のみに接続すると、Rにも同じ信号が流れ、モノラル信号になります。

フォーンタイプ



❸ STEREO OUT出力端子

インプットチャンネル1 ～ 5/6に入力された信号がミックスされて出力されます。出力レベルは、MASTER LEVELコントロールで調整します。この端子には、モニタースピーカー(パワードスピーカー)などを接続します。

❹ PHONES端子

ヘッドフォンを接続します。STEREO OUT端子と同じ信号をモニターできます。

❺ MIC/INST切り替えスイッチ

MIC/INST入力端子❶に接続した機器に応じて切り替えます。マイクを接続した場合は、MIC (▀)、エレキギターやエレキベースを接続した場合はINST (▄)にします。

NOTE　MIC/INST端子に機器を接続しない場合は、このスイッチをMIC (▀)にしてください。INST (▄)にすると、ノイズが入ることがあります。

❻ GAINコントロール

入力信号の感度(信号の増幅量)を調節します。信号の最大入力時にインプットチャンネルのPEAKインジケーター❾が一瞬点灯する程度に設定すると、バランスがとれた良好な状態になります。

❼ COMPコントロール

コンプレッサーのかかり具合を調節します。COMP コントロールを右に回すと、圧縮効果だけでなく出力レベルも自動的に調整されます。過大入力を圧縮して、信号を歪ませずに全体の音圧を上げることができます。

NOTE　COMPコントロールのレベルを上げすぎると出力レベルが上がるため、ハウリングしやすくなります。少し抑えて設定してください。

❽ MONO/STEREO切り替えスイッチ

インプットチャンネル1と2をモノラルチャンネルとして使用するか、ステレオチャンネルとして使用するかを決めます。このスイッチをMONO (▀) にすると、インプットチャンネル 1 と 2 がモノラルチャンネルとなり、STEREO OUT出力端子❸のLとRの両方にインプットチャンネル1と2の信号が送られます。STEREO (▄) にすると、インプットチャンネル1と2をステレオチャンネルとして使用できます。このとき、インプットチャンネル1の信号はSTEREO OUT端子のLへ、インプットチャンネル2の信号はSTEREO OUT端子のRへ送られます。

❾ PEAKインジケーター

コンプレッサー通過後の信号がクリッピングレベルに近づくとPEAKインジケーターが点灯します。
このインジケーターが点灯した場合は、GAIN コントロール❻やCOMP コントロール❼の設定を下げてください。

❿ LEVELコントロール

インプットチャンネルの信号の出力レベルを調整し、チャンネル間の音量バランスを調整します。

⓫ POWERインジケーター

付属の USB ケーブルで AUDIOGRAM をコンピューターに接続し電源が供給されると、POWERインジケーターが点灯します。

⓬ PHANTOM +48V (CH1)スイッチ/インジケーター (チャンネル1のみ)

ファンタム電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチをオン(▄)にすると、インプットチャンネル1のMIC/INST入力端子❶(XLRタイプ)にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクを使用するときは、このスイッチをオンにしてください。

!

- **ファンタム電源が不要なときは、必ずこのスイッチをオフにしておいてください。**
- **ファンタム電源をオンにする場合は、コンデンサーマイク以外の機器 (XLRタイプ)がチャンネル1のMIC/INST端子に接続されていないことを確認してください。外部機器の故障の原因になります。ただし、バランス型ダイナミックマイクや出力端子がフォーンタイプの楽器は接続されていても問題ありません。**
- **スピーカー保護のために、パワーアンプ(パワードスピーカー)の電源がオフの状態で、ファンタム電源をオン/オフしてください。また、MASTER LEVELコントロールは、最小にしておくことをおすすめします。大音量が出て、聴力障害または機器の損傷になることがあります。**

⓭ レベルインジケーター

MASTER LEVELコントロール⓯調整前の信号レベルを表示します。信号が入力されるとSIGNAL LEDが点灯し、クリッピングレベルに近づくとPEAK LEDが点灯します。PEAK LEDが点灯する場合は、各インプットチャンネルのLEVEL コントロール❿で信号のレベルを下げてください。

⓮ DAWコントロール

Cubase AIからAUDIOGRAMのSTEREO OUT出力端子❸に入力される信号のレベルを調整します。

⓯ MASTER LEVELコントロール

STEREO OUT出力端子❸に出力される信号のレベルを調整します。各インプットチャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。

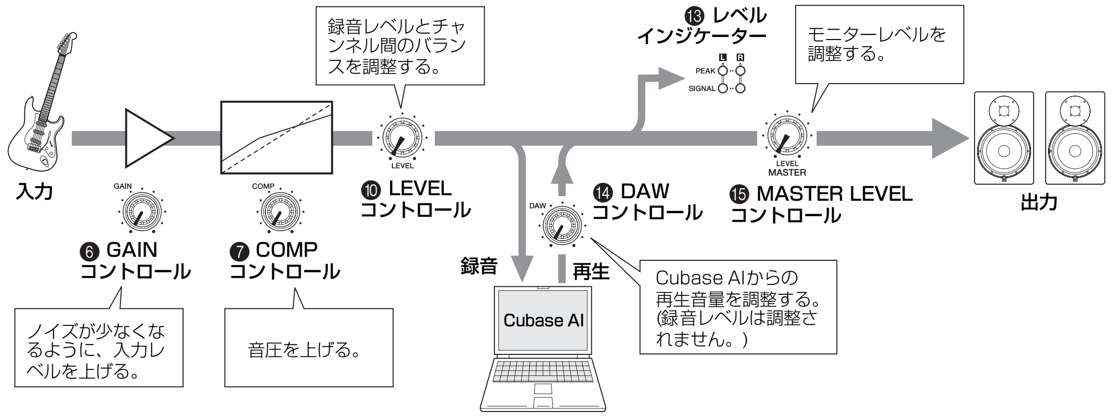
⓰ USB端子

付属のUSBケーブルを使って、コンピューターに接続する端子です。AUDIOGRAMをコンピューターに接続すると、本体に電源が供給され、本体とコンピューター間でオーディオデータを入出力できます。

! **USBケーブルをUSB端子から抜き差しする場合は、DAWコントロールとMASTER LEVELコントロールを最小にしてください。**

NOTE　USBケーブルは、1.5m以下のものを推奨します。

■ 入力された信号の流れ



困ったときは?

本体の電源が入らない

□ 付属のUSBケーブルが本体とコンピューターに正しく接続されていますか?

正常に動作しない

□ USBケーブルやオーディオケーブルなどは正しく接続されていますか？

□ USBハブをお使いではありませんか？
AUDIOGRAM をコンピューターに直接接続してお試しください。また、USB ポートが複数ある場合は、他のUSB ポートもお試しください。

□ 他のUSB機器を使用していませんか？
他のUSB機器も接続している場合は、ヤマハUSB機器だけを接続して問題がないか確認してください。

入力ポートが表示されない(Windows Vista)

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンド」アイコンをダブルクリックして、「サウンド」ダイアログを表示させます。
2. 「録音」タブをクリックし、「2-USB Audio CODEC」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
3. 「詳細」タブをクリックして、「既定の形式」で「2チャンネル、16ビット、44100Hz (CDの音質)」または「2 チャンネル、16 ビット、48000Hz (DVDの音質)」を選択します。

音が鳴らない

□ スピーカーケーブルがショート(断線)していませんか?

□ 音源、オーディオ機器、アプリケーション、OS(コンピューター)などの音量設定は上がっていますか？

□ OS(コンピューター)の出力がミュートまたは、消音の設定になっていませんか?

□ 複数のアプリケーションを起動していませんか?
不要なアプリケーションなどは終了してください。

□ OS(コンピューター)側のオーディオデータの出力先を設定してありますか?

Windows Vistaの場合:

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンド」アイコンをダブルクリックして、「サウンド」ダイアログを表示させます。
2. 「再生」タブをクリックし、「2- USB Audio CODEC」アイコンにチェックが入っているか確認します。
チェックがない場合は、「2- USB Audio CODEC」アイコンを右クリックし、「既定のデバイスとして設定」を選択します。
3. 同様に、「録音」タブをクリックし、「2- USB Audio CODEC」アイコンにチェックが入っているか確認します。
チェックがない場合は、「2- USB Audio CODEC」アイコンを右クリックし、「既定のデバイスとして設定」を選択します。

Windows XPの場合:

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンドとオーディオデバイス」のアイコンをダブルクリックして、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ダイアログを表示させます。
2. 「オーディオ」タブをクリックします。
3. 「音の再生: 既定のデバイス」と「録音：既定のデバイス」を「USB Audio CODEC」に設定します。
4. 「OK」をクリックします。

Macintoshの場合:

1. アップルメニューをクリックして、「システム環境」からサウンドを選択します。「サウンド」ダイアログを表示させます。
2. 入力タブをクリックして、「サウンド入力源の選択」から「USB Audio CODEC」を選択します。
3. 出力タブをクリックして、「サウンド出力装置の選択」から「USB Audio CODEC」を選択します。

□ Cubase AI上でオーディオデータの出力先を設定していますか？設定方法については、クイックガイド(89ページ)をご覧ください。

録音した音量が小さい

□ コンピューターからの出力設定が小さくなっていませんか？
出力音量を最大値に設定することをおすすめします。また、このときコンピューターの操作音をミュートに設定してください。

Windows Vistaの場合:

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンド」アイコンをダブルクリックして、「サウンド」ダイアログを表示させます。
2. 「再生」タブをクリックし、「2- USB Audio CODEC」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
3. 「レベル」タブをクリックして、「スピーカー」の音量を最大(100)に設定します。
設定後、「プロパティ」ダイアログを閉じます。
4. 「サウンド」ダイアログの「サウンド」タブをクリックして、「サウンド設定(H)」で「サウンドなし」を選択します。

Windows XPの場合:

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンドとオーディオデバイス」のアイコンをダブルクリックして、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ダイアログを表示させます。
2. 「音量」タブをクリックします。
3. 「デバイスの音量」を最大(高)に設定します。
4. 「サウンド」タブをクリックします。
5. 「サウンド設定」で「サウンドなし」を選択します。

Macintoshの場合:

1. アップルメニューをクリックして、「システム環境」からサウンドを選択します。「サウンド」ダイアログを表示させます。
2. 出力タブをクリックして、下に表示されている主音量を最大に設定します。
3. サウンドエフェクトタブをクリックして、「警告音の音量」を最小に設定します。

□ Cubase AI を起動した状態で USB ケーブルを抜き差ししていませんか?
Windows側の出力音量の設定が自動的に下がる (初期設定に戻る)場合があります。出力の音量を上げてください。

音が途切れる、または歪む

□ PEAKインジケーターが赤く点灯していませんか?
GAINコントロールまたは、LEVEL コントロールのレベルを下げてください。

□ コンプレッサーをかけすぎていませんか?
COMPコントロールでレベルを下げてください。

□ お使いのコンピューターは推奨環境を満たしていますか?
87ページの動作環境をご覧ください。

□ 他のアプリケーションやデバイスドライバやUSBデバイス(スキャナ、プリンタなど) は動作していませんか?
不要なアプリケーションなどは終了してください。

□ たくさんのオーディオトラックを再生していませんか?
お使いのコンピューターの能力によっては、たくさんのオーディオトラックを再生すると音が途切れたりすることがあります。

□ 長時間のオーディオデータの録音 / 再生をしていませんか?
お使いのコンピューターによっては、オーディオデータの処理速度や外部記憶装置へのアクセスなどのさまざまな要因により、処理能力が低下する場合があります。

Windows XPの場合、以下のように設定を変更することで改善できる場合もあります。

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリック、「サウンドとオーディオデバイス」のアイコンをダブルクリックして、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ダイアログを表示させます。
2. 「音量」タブをクリックして、「スピーカー設定」の「詳細設定」をクリックします。「オーディオの詳細プロパティ」ダイアログを表示させます。
3. 「パフォーマンス」タブをクリックします。ハードウェアアクセラレータ: 最大、サンプルレート: 標準に設定します。

コンピューターについて詳しい知識のある方以外、この設定は変更しないことをおすすめします。

ファイルシステムが適正に設定されているかなどをご確認ください。また、空きメモリが十分(128MB以上) あり、録音再生するウェーブファイルがそれほど大きくない場合、仮想メモリの設定を変更することで改善できる場合もあります。

その他、お使いのコンピューターによっては、ハードディスクコントローラなどのデバイスドライバやBIOS などのアップデートが必要な場合もあります。詳しくは、お使いのコンピューターのサポート窓口やホームページなどでご確認ください。

□ メモリを増やしてみてください。
メモリを増やすことによって、コンピューターの処理能力がアップします。メモリの増設については、お使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

外部MIDI キーボードでソフトシンセを演奏すると音が遅れる(レイテンシーを短くしたい)

□ 下記のURL にアクセスして、最新情報をご確認ください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>

ユーザーサポートサービスのご案内

■ ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。
ユーザー登録手続きは、下記ヤマハホームページよりお願いします。

ヤマハホームページ http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/

* ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号(SER No.)が必要になります。

■ 住所/氏名/メールアドレスの変更 (同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ヤマハホームページよりお手続きください。

■ 質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術/高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究/改善いたしております。
しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。
実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。
そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではデジタルインフォメーションセンターを開設いたしております。
お気軽にご利用いただきますようご案内申し上げます。
お問い合わせの際には、「製品名」、「シリアル番号(SER No.)」をお知らせください。

デジタルインフォメーションセンター

- ◆ TEL : 053-460-1666
- ◆ 受付日: 月曜日～土曜日
  (祝日およびセンターの休業日を除く)
- ◆ 受付時間: 10:00～18:00
  (土曜日は10:00～17:00)

http://www.yamaha.co.jp/support/

付属DAWソフトウェア については、Steinberg社のホームページをご覧ください。Steinberg社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新のアップデータのダウンロード、FAQなどを下記URLにて公開しております。
http://www.steinberg.net/jp/
付属DAWソフトウェア の[ヘルプ(Help)]メニューからSteinberg社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには、付属DAWソフトウェア のPDFマニュアルや追加情報なども掲載されています。)

■ 営業窓口

国内営業本部 LM営業部 企画推進室
〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11
TEL. (03) 5488-5430

PA・DMI 事業部 MP推進部 マーケティンググループ
〒430-8650　静岡県浜松市中区中沢町10-1
TEL. (053) 460-2432

ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/

ヤマハマニュアルライブラリー
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

あなたの音楽生活をフルサポート　ミュージックイークラブ
http://www.music-eclub.com/

お客様サポート&サービス
http://www.yamaha.co.jp/support/

* 名称、住所、電話番号、URL などは変更になる場合があります。

サービスについて

■ 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

■ 損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

■ 調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

■ お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談はお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

● ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

◆ 修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター

受付時間　月曜日～金曜日　9:00～19:00、土曜日　9:00～17:30(祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル
(全国共通番号)　**0570-012-808**

市内通話料金でOK ナビダイヤル　※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

(IP電話、携帯電話からおかけになる場合　TEL053-460-4830)

FAX(053)463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間　月曜日～金曜日　9:00～17:45(浜松サービスステーションは 8:45～17:30)
(祝祭日および弊社休業日を除く)

* お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	FAX(011)512-6109
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	FAX(03)5762-2125
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	FAX(053)462-9244
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F	FAX(052)652-0043
大阪サービスセンター	〒564-0052	吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F	FAX(06)6330-5535
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2丁目11-4	FAX(092)472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

持込修理

保 証 書

※品　　名	Computer Recording System	
※品　　番	AUDIOGRAM 6	
※シリアル番号		
保 証 期 間	本　体	お買上げの日から1ケ年間
※お買上げ日	年　月　日	
※お 客 様	□□□-□□□□ ご住所 お名前　様 電 話　(　)	

ご販売店様へ　※印欄は必ずご記入してお渡しください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事をお約束するものです。
お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

(詳細は下項をご覧ください)

※販売店	店 名		印
	所在地		
	電 話	(　)	

ヤマハ株式会社 PA・DMI事業部

〒430-8650　静岡県浜松市中区中沢町10番1号
TEL 053-460-2432

無償修理規定

1. 保証期間中、正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には、無償修理を致します。

2. 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。

3. ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、最寄りの※ヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問合わせください。

4. 保証期間内でも次の場合は有料となります。

(1) 本書のご提示がない場合。

(2) 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。

(3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。

(4) お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。

(5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。

(6) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。

5. この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

6. この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

＊この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問合わせください。

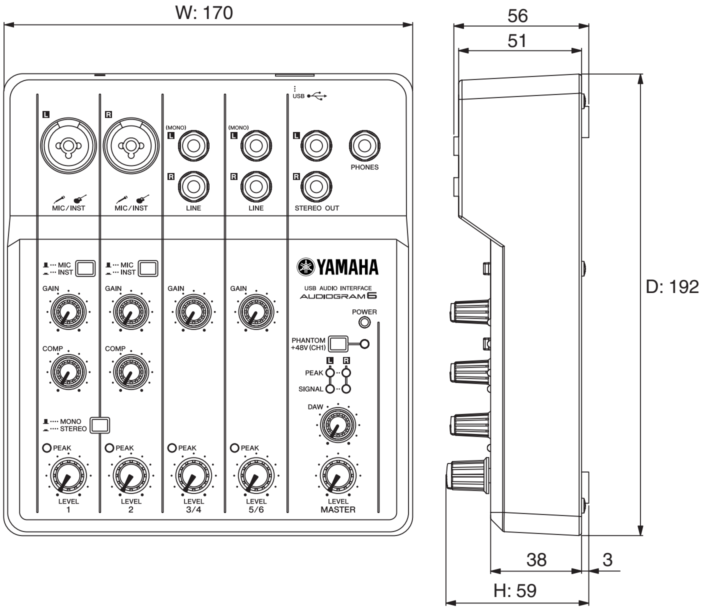
※ヤマハ株式会社の連絡窓口その他につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

Specifications

General Specifications

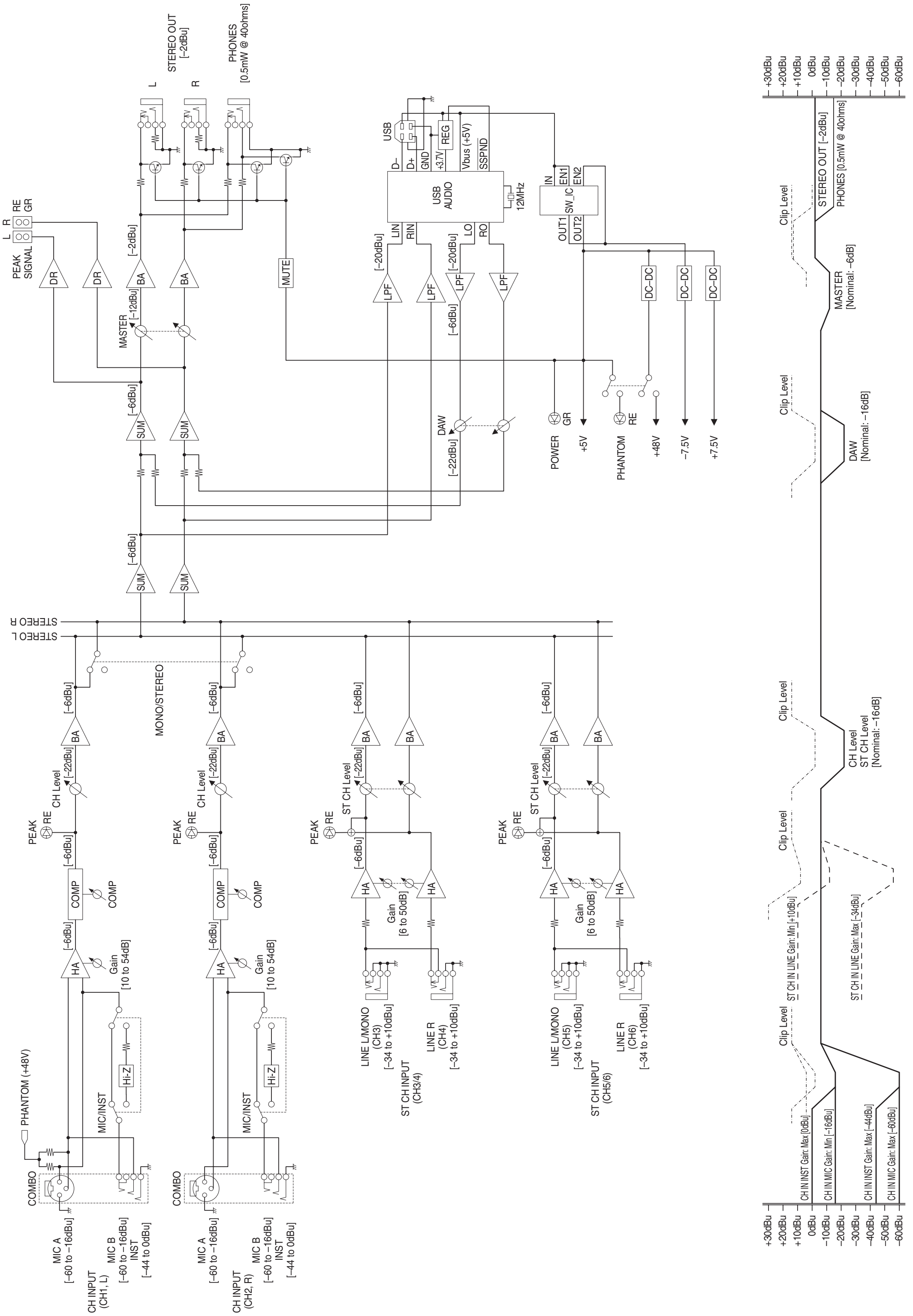
Jacks	MIC/INST Input Jack	x 2	Combo jacks (Mic/HiZ)
	LINE Input Jacks (L, R)	x 2	Phone jacks
	PHONES Jack	x 1	Phone jack
	STEREO OUT Jacks (L, R)	x 1	Phone jacks
	USB Connector	x 1	USB 1.1 44.1/48 kHz, 16 bit
Controls	MIC/INST Switch	x 2	MIC: for microphones INST (Hi-Z): for guitars, etc.
	GAIN Control	x 4	Gain for CH 1-5/6
	COMP Control	x 2	Compressor for CH 1, 2
	MONO/STEREO Switch	x 1	MONO: CH 1, 2 signals fuction as independent mono channels. STEREO: CH 1, 2 signals fuction as a stereo pair.
	LEVEL Control	x 4	Adjust the level of CH 1-5/6
	PHANTOM +48V Switch	x 1	48 V, only for CH1
	DAW Control	x 1	Adjusts the DAW playback signal
	MASTER LEVEL Control	x 1	Adjusts the overall signal
Indicators	Level Indicators	x 1	2 points (green, red)
	PEAK Indicator	x 4	Red
	Phantom Power	x 1	Red
	Power	x 1	Green
Power Supply		USB bus-powered	
Dimensions (W x H x D)		170 x 59 x 192 mm	
Net Weight		760 g	
Included Accessories		Cubase AI 4 DVD-ROM USB cable Owner's Manual	

Dimensional Diagrams



Unit: mm

Block Diagram and Level Diagram



同梱ディスクについて

■ ご注意

- 付属のソフトウェアの著作権は、Steinberg Media Technologies GmbH社が所有します。
- 以下に付属のソフトウェアのご使用条件が記載されています。付属のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。ディスクの包装を解かれた場合は、付属のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 付属のソフトウェアのディスクは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ・ビジュアル用のCD/DVDプレーヤーでは絶対に使用しないでください。
- 付属のソフトウェアおよび動作環境については、下記のURL に最新情報が掲載されています。
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/
- ヤマハ株式会社では、付属のソフトウェアについてのサポートは、一切行なっておりません。

■ 付属DAWソフトウェアについて

同梱のディスクには付属DAWソフトウェアが入っています(Windows/Macintosh)。

NOTE

- 付属DAWソフトウェアをインストールするときは、管理者権限のあるアカウントで行なってください。
- 付属のDAWソフトウェアを継続してご使用いただくために、ユーザー登録とソフトウェアライセンス認証が必要です。登録と認証は、インターネットに接続した状態で付属のソフトウェアを起動したときに行なえます。起動時に表示される「今すぐ登録」ボタンをクリックし、表示されたすべての項目を入力してください。登録と認証をされない場合は、インストール後、一定期間のみご使用いただけます。
- Macintoshの場合は、「.mpkg (拡張子)」のアイコンをダブルクリックしてインストールします。

最新の動作環境については、下記のURLをご参照ください。
http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/smtg/

■ サポートについて

付属DAWソフトウェアについては、Steinberg社のホームページをご覧ください。Steinberg社のホームページでは、製品に関するサポート情報や最新のアップデータのダウンロード、FAQなどを下記URLにて公開しております。
http://www.steinberg.net/home_japan.html

付属DAWソフトウェアの[ヘルプ(Help)]メニューからSteinberg社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには付属DAWソフトウェアのPDF マニュアルや追加情報なども掲載されています。)

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、<ソフトウェア使用許諾契約>を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。
本ソフトウェアのディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。ご同意いただけない場合は、インストール、コピー、その他のご使用はおやめください。

このソフトウェア使用許諾契約は、本製品に同梱している、スタインバーグ社の付属DAWソフトウェアに関して、お客様のご使用条件を規定するものです。付属DAWソフトウェアをインストールする過程で「スタインバーグ·エンドユーザー·ライセンス契約書」が表示されますが、その契約書は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。インストールする際には、その「スタインバーグ·エンドユーザー·ライセンス契約書」を無視して「同意します」を一律選択し「次へ」をクリックして、次頁(ユーザー登録)に進んでください。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はお客様に対し、ソフトウェアプログラムおよびデータファイル(以下「本ソフトウェア」といいます。)を使用する権利を許諾します。本契約条項は、今後お客様に一定の条件付きで配布され得る本ソフトウェアのバージョンアッププログラム、データファイルにも適用されるものとします。本ソフトウェアの権利およびその著作権はスタインバーグ社(ドイツ)にあり、弊社は同社からお客様に使用許諾するためのサブライセンス権を得ています。本ソフトウェアの使用によって作成されたデータの権利はお客様が取得しますが、本ソフトウェアは、関連する著作権法規のもとで保護されています。

- お客様ご自身が一時に一台のコンピューターにおいてのみ使用することができます。
- バックアップが許されているものは、バックアップをとる目的でのみ、機械で読み取れる形式での本ソフトウェアのコピーを作成することができます。ただし、そのバックアップコピーには本ソフトウェアに表示されている弊社の著作権の表示や他の権利帰属についての説明文もコピーしてください。
- お客様は、製品本体を第三者に譲渡する場合に限り、付属品である本ソフトウェアを使用する権利を、同じ第三者に譲渡することができます。ただし、お客様が本ソフトウェアのコピーを保持せず、かつ譲受人が本契約条項に同意する場合に限られます。

2. 使用制限

(1) 本ソフトウェアの使用にあたっては、次のことを遵守してください。

- 本ソフトウェアには著作権があり、その保護のため、お客様が本ソフトウェアを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他のいかなる方法によっても、人間が感得できる形にすることは許されません。
- 本ソフトウェアの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、頒布または本ソフトウェアの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。
- 本ソフトウェアをネットワークを通して別のコンピューターに伝送したり、ネットワークで他のコンピューターと共有することは許されません。
- 本ソフトウェアを使用して、違法なデータや公序良俗に反するデータを配信することは許されません。
- 弊社の許可無く本ソフトウェアの使用を前提としたサービスを立ち上げることは許されません。

(2) 楽曲用MIDIデータ等、本ソフトウェアにより使用または入手できる著作権曲については次のことを遵守してください。

- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく営業目的で使用することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく複製、転送または配信したり、または不特定多数にむけて再生および演奏することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって入手できるデータの暗号を著作権者の許可無く解除したり、電子透かしを改変したりすることは許されません。

3. 終了

本契約はお客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日に発効します。本契約は、お客様が著作権法または本契約条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに本ソフトウェアとそれに関するドキュメンテーション、およびそれらのコピーをすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

本ソフトウェアがディスク等の媒体で販売された場合や、ディスク等の媒体で製品に同梱された場合には、弊社は、お客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日から14日間に限り(お受け取りの日は、受領書の写しで証明される日とします)、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。弊社はそれ以上の保証はいたしません。

5. 本ソフトウェアに関する保証

本ソフトウェアのご使用についての一切のリスクはお客様のご負担となります。
本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、第三者の権利を侵害しないことの保証は明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。特にお客様の目的に適合することや、ソフトウェアの操作が中断されないことやソフトウェアの欠陥や瑕疵が修正されることの保証はいたしません。

6. 責任の制限

弊社の義務は、お客様に本契約条項の条件で本ソフトウェアの使用を許諾することがすべてです。
弊社は、本ソフトウェアの使用、誤用またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生の可能性について予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。すべての損害、損失、契約や違法行為等に対する訴訟申立てについて、いかなる場合も、お客様に対する弊社の責任は、お客様が本ソフトウェアの購入のために支払った金額を越えることはありません。

7. 一般事項

本契約条項は、弊社の権限ある者の署名のある書面によらない限り、改訂することはできません。
本契約条項は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。本契約に関し紛争が生じた場合には東京地方裁判所を専属管轄裁判所とします。

8. インストール時に表示される契約書

本ソフトウェアをインストールする過程で表示される「スタインバーグ·エンドユーザー·ライセンス契約書」は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。

Yamaha Web Site (English only)
http://www.yamahasynth.com/

Yamaha Manual Library
http://www.yamaha.co.jp/manual/

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation
© 2008 Yamaha Corporation

WN49330 811POAPx.x-xxB0
Printed in China